289 N-isopropyl-p-[123]iodoamphetamine2 よる各種脳神経疾患の脳血流イメージング 橋本禎介1,北条昌一2,阿部肇2,佐藤昌男2,高田育紀2

,一条真琴3,久保敦司4,橋本省三4,(川崎市立川崎病 院理学診療科1,済生会宇都宮病院放射線科2,同神経内 科3, 慶応義塾大学放射線科4)

今回我々は、各種脳神経疾患患者に対し1231-IMPを用 いて脳血流シンチグラフィを施行し、X線CTとの対比お よび予後との相関につき検討したので報告する。 対象 は、脳梗塞28例、出血性脳梗塞5例、脳出血5例、内頚 動脈閉塞3例、脳分離体外循環による胸部大動脈瘤術後 3例、てんかん2例、脳動脈瘤術後1例、外傷性内頚動脈 海綿静脈洞瘻1例、大動脈炎症候群1例の49例である。 1231-IMPを3mCi静注し30分後よりスキャンを開始し、 4時間後に全例delayed scanを行った。また、同日に併 せてX線CTを施行した。 神経症状に比し、X線CTの所見 が乏しい症例においては1231-IMP scanは神経症状によ く一致した部位の灌流欠損、低下を認め疾患の経過観 察、推測に有用であった。49例中8例にいわゆるremote effectがみられ、crossed cerebellar diaschisis に対しacrossed cerebral diaschisisとも言えるよう なremote effectが存在する可能性が疑われた。再分布 像は20例の症例で認められたが、疾患の経過、神経症 状の予後との相関関係は明らかではなかった。

290 Precontrast CT scan で描出し得なかっ た脳障害に対する 1-123 IMP brain scansの有用性の 検討

今西好正、米山優実、桑原雅子、石塚久美子、尾上 正孝、石川 徹、辺見 仁*、高橋洋一*、染谷一 彦*、池田一彦**、今井幸充**、長谷川和夫**、 (聖マリアンナ医科大学放射線科、同第三内科#、 同神経精神科**)

近年、I-123 IMP brain scans が盛んに行われ、い ろいろな疾患に対する有用性が検討されている。今回 我々は precontrast CT scanでは正常または大脳基底 核にわずかな病変を認めるのみで、CT所見が臨床症状 と著しく異なっていた症例について I-123 IMP brain scans の有用性を検討したので報告する。症例は25例 で、その内訳は脳動脈硬化症 6例、TIA・RIND 3例、 SLE 脳症 2例などであった。I-123 IMP brain scans の所見が臨床症状または最終診断と一致していたのは 20例、明らかに違っていたのは 4例、不明 1例であっ た。また、血管撮影所見と一致していたのは12例中 8 例、明らかに違っていたのは 2例、一部一致していた のが 2例であった。以上の結果から 1-123 IMP brain scans は、CT所見が臨床症状と著しく異なっている症 例に対して施行することは病変を把握するのに有用と 考えられた。

291 IMP-SPECT による浅側頭動脈-中大脳 動脈吻合術の適応決定

今井啓子¹、東壮太郎²、松田博史¹、辻 志郎¹、 隅屋 寿³、藤井博之²、大場 洋¹、寺田一志¹、 久田欣一1、(金沢大学核医学科1、同脳神経外科2、 福井県立病院放射線科3)

IMP-SPECT を用い浅側頭動脈中大脳動脈吻合術の 適応を検討した。IMP-SPECT で再分布現象が認めら れた7例の虚血性脳血管障害に対し吻合術を施行した。 術後に神経症状が改善するか虚血発作が消失した有効群 (3例)と、そのいずれも認められなかった無効群(4 例)に分け、IMP-SPECT 、臨床病型、CT、脳血管 造影について検討した。5例で各ROI の血流量を非侵襲 的に求め術前後で比較した。IMP-SPECT は有効群で **患側皮質に広範な再分布領域が認められ、無効群で比較** 的小範囲の再分布領域とCT上の梗塞巣に一致した持続 性低集積領域が認められた。術後の患側rCBF の変化は 有効群で平均36%増加、無効群で1%増加であった。症 状改善や虚血発作消失を目的とする血行再建術の適応は 以下の通りである。IMP-SPECT で閉塞血管領域に広 範な再分布現象が認められ、血流低下とviability が証 明される。CTで神経症状に見合う低吸収域が認められ ない。脳血管造影で側副血行が良好である。臨床病型は 中等症strokeより軽症である。

I-123 IMP SPECT が浅側頭-中大脳動脈吻 合術の経過観察に有用であった類モヤモヤ病の1例 瀧島輝雄」、町田喜久雄」、本田憲業」、海津啓之 斉藤正身1、永田和哉2、松居 徹2、城下文夫2 茂野 卓2、浅野孝雄2、(埼玉医科大学総合医療 センター放射線科1、同脳神経外科2)

4回の一過性右不全片麻痺発作を主訴とした33才 女性、類モヤモヤ病の1例を呈示する。脳CTでは異 常所見を認めなかった。1-123 IMP SPECT 像では左側 頭葉、左基底核領域及び、視床に血流低下を、4時間 後の遅延SPECTでは不完全再分布を、それぞれ認め た。脳血管写では左中及び、前大脳動脈の閉塞と脳底 部異常血管網を認めたが右側は正常であった。浅側頭 ー中大脳動脈(STA-MCA)吻合術後I-123 IMP SPECT に は異常所見を認めなかった。

正常脳CTを示し、I-123 IMP SPECT に異常を認め た症例は文献上、TIAまたはRINDを呈するものが多 かった。類モヤモヤ病のSTA-MCA吻合術前後で1-123 IMP SPECT を施行し、経過観察に有用であった症例の 報告は見当たらなかった。